

学校教育 目標	主体的に学び、協働的に高め合うこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	主体性 協働性

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・文章の要約、読み取りが苦手で、物語文や説明文を読み取るのに時間がかかる児童がいる。 ・自分の考えを文で説明することが苦手である。 ・長さや面積などの量感が身に付いていない。 ・学習したことと生活経験を結び付けることができていない。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・目的や条件に合った内容を自分の言葉で記述することが苦手である。 ・指示されたことは努力できるが、主体性や積極性が十分ではない。 ・授業の中で「課題」を設定できる児童がいるが、固定化している。 ・基礎的な繰り返し学習ややり直しに対しての取り組み方に個人差がある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・友だちの発言と比べて考えたり、つなげて発言したりなど学びを深めていくことが難しく、発言する児童が固定化されている。 ・目的や条件に応じて自分の考えを記述することが苦手である。 ・自らの課題を意識し、問題解決に向けて粘り強く学び続けようとする力に個人差がある。 ・学びを他の学びへ生かそうとする意識に個人差がある。	
指導の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・「付けたい力」を明確にして、主体性や協働性を育む授業計画(教材研究)を実施 ・板書の構造化を図り、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を意識した授業の実践。「振り返り」では、視点を意識させ「書く時間」を確保 ・校内研の検証授業を見る視点を3つ設定し、その視点に基づく授業実践と検証の実施、成果と課題の共有 ・9年間を意識した話し合い活動を取り入れ、自分の考えをもたせ、表現させる授業の実施 ・低学力層への支援、個別最適な学びの促進 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・「書く」活動を意識化し、自分の考えを書く時間を各教科で実施 ・学習内容の定着を図るための習熟の時間の設定や家庭学習の工夫 ・一人1台端末のアプリを活用した個別学習や、ロイロノートの共有による多様な見方、考え方の育成 ・活用問題や難易度の高い問題の取組と考え方の育成 ・読書の習慣化	



学力に関する達成指標
アンケートで「自分の考えをもち、友だちと考えを交流することができた」と回答する児童92%以上



	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	主体的に学び、協働的に高め合うこどもを育む授業づくり	
	〈取組内容〉 1) 付けたい力を明確にし、こどもの思考を大切にしたい授業づくりを行う。 2) こどもの意欲を高める課題を設定し、主体的・協働的に解決していく学習活動の工夫をする。 3) 授業終末に、視点(付けたい力)を意識した振り返りを位置付け、適切な評価を行い、学びの充実を図る。	〈家庭・地域の取組内容〉 1) 「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の支援を行う。 2) 家庭内でこどものメディアに対する接し方を支援する。 3) 家庭内でこどもが進んであいさつをするように支援する。
	〈取組指標〉 1) 「付けたい力」を明確にして課題を設定し、こどもの思考を大切にしたい授業づくりに取り組んだ教員 100% 2) 主体性・協働性を育むために、学びの手立てを工夫した教員 100% 3) 授業終末に、視点(付けたい力)を明確した振り返りを位置付けた教員 100%	〈家庭・地域の取組指標〉 1) 「学習環境づくりや学習サポートなどの支援を家庭で行っている」と回答する保護者80%以上。 2) 「家庭でゲームやインターネットなどのルールを決めて使わせている」と回答する保護者80%以上 3) 「家庭内で保護者が進んでこどもとあいさつをしている」と回答する保護者100%
	〈検証指標〉 1) 児童アンケートで、「授業が分かった、できた」と回答する児童90%以上 2) 児童アンケートで、「自分の考えをもち、友だちと考えを交流することができた」と回答する児童92%以上 3) 児童アンケートで、「めあてにあった振り返りができた」と回答する児童90%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 同上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ①学校・学級による指導の個別化 ②デジタルドリル等の一人1台端末を活用した学習の個性化 } 課題が終わらなかった児童へ休み時間個別対応 ③思考力・判断力・表現力を育む学習指導と実践 } ④交換授業・専科等による教材研究の充実 } 授業の中でこども同士の対話や教え合い ⑤読書活動の充実 }	